

(3) 施策の展開方向

【園 芸】

園芸産出額全国第1位の奪還に向けた「力強い産地づくり」の推進

項 目	現 状 (23年)	目 標 (29年)
園芸産出額（野菜、果樹、花き）*1	1,906億円 (全国第2位)	2,220億円 (全国第1位)
いも類産出額*2	209億円 (全国第3位)	228億円 (全国第3位)

- *1 園芸産出額1,906億円を6年後に約16.5%(314億円)増加して2,220億円を目指します。
(23年産出額全国第1位の北海道との差は、167億円(2,070億円)で、6年後に北海道は7%(143億円)増の2,213億円と予想されるため、それを上回る2,220億円を目指します。)
- *2 いも類産出額209億円を6年後に約9%(19億円)増加して228億円を目指します。
(23年産出額全国第4位の茨城県との差は6億円(203億円)で、6年後に茨城県は4%(8億円)増の211億円と予想されるため、それを上回る228億円を目指します。)

[現状認識]

本県の園芸農業は、温暖な気候と大消費地の首都圏に位置する恵まれた立地条件の下、生産者の長年の努力により、全国有数の園芸県として発展しています。

近年、少子高齢化により国内消費量が減少する中、本県においては、生産者の高齢化や担い手の不足による生産量の減少などにより、昭和43年以降全国第1位を維持していた園芸産出額は、平成10年をピークに減少傾向に転じ、平成21年からは全国第2位となるなど生産力が低下しており、産地を強化することが重要な課題となっています。

また、流通面では、実需者*と産地の直接取引、農家による直売や産直、観光農園等が増加するなど、流通形態が多様化する一方で、量販店の一括大量仕入れや加工・業務用需要が増加しており、大口の取引や販売先の多様なニーズに対応するため、これまでの産地の強化に加え、産地間の連携体制を構築することが課題となっています。

さらに、本県が全国第1位の産出額を誇る梨では、生産能力が低下する老木が約4割を占めていることから、計画的な改植を早急に進める必要があります。

※ 実需者：「一般消費者」に対して、飲食店や小売店、食品製造業等の「食に関わる事業者」のことです。

千葉県園芸産出額の推移

区分	年	平成	17年	20年	21年	22年	23年	23年 全国順位 (位)	ピーク		ピーク比 (%)
		7年	(億円)	(億円)	(億円)	(億円)	(億円)		(年)	(億円)	
園 芸		(億円)									
	園 芸	2,366	2,033	2,011	1,948	2,012	1,906	2	H10	2,562	74
	野菜	1,978	1,653	1,652	1,586	1,676	1,568	3	H10	2,137	73
	果実	154	172	168	173	145	162	14	H11	188	86
	花き	234	208	191	189	191	176	4	H11	269	65
	いも類	244	202	228	210	201	209	3	H4	357	59
	その他※	51	51	45	51	48	43	4	S53	84	51
	農 業	4,850	4,161	4,216	4,066	4,048	4,009	4	H6	5,109	78
	園芸／農業	49%	49%	48%	48%	50%	48%			-	-

※ その他は種苗、苗木等

資料：千葉農林水産統計年報（農林水産省）

[基本方向]

再生・強化を目指す園芸産地に対し、生産力や収益力を向上させるための生産体制の構築や省力機械・集出荷施設の整備等を集中的に支援するとともに、公益社団法人千葉県園芸協会を核に関係者が緊密に連携して「オール千葉」体制を構築することにより、大口需要や加工・業務需要に対応し、国内外産地に打ち勝てる「力強い産地づくり」に取り組みます。

[主な取組]

1 産地活性化の促進と戦略的連携による力強い産地づくり

取組の方向性

園芸産地の生産力や販売力を向上させるため、産地自らが行う活性化に向けた取組を支援するとともに、加工・業務需要など大口需要に対応できる生産・流通体制を構築するため、公益社団法人千葉県園芸協会を核に関係者が緊密に連携し「オール千葉」として、国内外産地に打ち勝てる力強い産地づくりに取り組みます。

具体的な取組

ア 産地自らの取組による産地活性化の推進

- ・園芸産地を活性化するため、産地が自らの強化に向けた計画を策定し、それに基づき行う機械化や施設化による生産規模拡大、生産体制の課題解決などの取組を推進します。

イ 多様なマーケット需要に対応できる競争力のある産地づくり

- ・量販店の一括大量仕入れや加工・業務用など大口需要に対応するため、卸売業者やJA全農千葉県本部等と連携して、情報の受発信に努めるとともに、公益社団法人千葉県園芸協会を核に、出荷規格の統一や出荷時期の延長に向けた広域産地間連携体制を構築します。
- ・実需者の要望に応えるため、加工・業務などの大口需要に対応した産地を育成するとともに、安定的に継続できる取引先の開拓を推進します。
- ・経営の安定化を図るため、野菜価格安定事業の導入を推進します。
- ・産地活性化に向けた課題解決のため、現地調査、巡回、情報提供など効果的な普及指導活動を展開します。

ウ 新品目の導入・輸出等の新たな取組による産地の活性化

- ・園芸産地を活性化するため、新品目等の導入とPRを推進します。
- ・経済発展の著しい東南アジアなどへの輸出を行う産地を支援します。

エ 将来の産地を支える担い手の育成

- ・将来にわたり安定的な生産を継続するため、後継者など新規就農者の確保・育成を支援します。
- ・経営の多角化や安定的な継承に向け、経営体の法人化を推進します。

主な事業

- 園芸産地活性化の支援
- 広域産地間連携体制の構築支援
- 産地における機械・施設等整備支援

【達成指標】

項目	現状 (24年度)	目標 (29年度)
産地活性化計画を策定する産地品目数* ¹ (累計)	17	35
産地間連携体制を構築する品目数* ² (累計)		4 4年間で構築する品目数
野菜指定産地における加工・業務向け出荷量* ³	21,991t/年	23,000t/年

*1 「ちばの園芸産地活性化支援事業」による産地活性化計画を策定する産地品目数を35品目とします。

*2 園芸協会を中心とした産地間連携体制を構築する品目数を26年度から4年間で4品目とします。

*3 指定産地における加工・業務用向け出荷量を5年後に約4.6%増加を目指します。

2 高収益型園芸農業への転換

取組の方向性

施設化や省力機械等の導入による規模拡大、梨の改植による生産力強化及び集出荷貯蔵施設の整備による流通体制の強化に対し支援するとともに、社会情勢の変化を視野に入れた新たな販路の拡大に取り組むことで、高収益型園芸農業への転換を図ります。

また、都市農業においては、限られた農地を有効活用した施設化等、生産性の高い園芸農業を推進します。

具体的な取組

ア 高品質・安定生産、高収益型園芸農業を目指した施設化の推進

- ・安定生産と品質向上を図るため、ビニールハウス等の設置及び団地化を支援し、経営の規模拡大を推進します。
- ・周年出荷と単収の増加を実現するため、長期的に多収栽培が可能な養液栽培等の高度な生産管理を行う施設栽培を推進します。
- ・老朽化した温室の生産力の維持向上を図るため、温室のリフォームを支援します。
- ・燃油高騰の影響を軽減し経営の安定化を図るため、省エネルギー型温室への転換を推進するとともに、木質バイオマス等の地域資源を活用した施設園芸団地の可能性について検討します。

イ 露地野菜を中心とした機械化等による経営規模拡大の推進

- ・露地野菜の生産規模拡大のため、機械の導入を支援し省力化・低コスト化を推進するとともに、水田裏作や耕作放棄地の活用を推進します。
- ・担い手農家の規模拡大を図るため、農地の利用集積を推進します。
- ・干害被害の防止による生産の安定化を図るため、畑地かんがいなど生産基盤の整備を推進します。
- ・担い手の労力不足を補うため、雇用活用システムの構築を推進します。
- ・新規露地野菜産地の経営安定化を図るため、指定産地に指定し、国の野菜価格安定事業等の活用を推進します。

ウ 高品質・安定生産技術による既存産地の強化・再生

- ・病害虫の防除や連作障害[※]を回避し、生産性を高める栽培方式の確立・導入により、経営の安定化を図ります。
- ・梨の安定的生産を図るため、収量が低下した老木の計画的な改植を推進します。
- ・消費者ニーズに応える新品種を開発・選定するとともに、その産地化に向けた普及と栽培拡大を推進します。

※ 連作障害：同じ土地で、同じ若しくは近縁の作物を繰り返し栽培し続けることで起きる生育不良のことです。

エ 集出荷貯蔵施設の高度化・大型化の推進による産地流通体制の強化

- ・生産物の有利販売に向け、出荷量の増加と高品質化に対応できる集出荷貯蔵施設の整備を推進します。
- ・老朽化している既存の集出荷施設の再整備や再編により、集出荷機能を向上させ、産地の規模拡大を図ります。
- ・多様な需要ニーズに応えるため、広域集出荷体制の構築に向けた、中核的集出荷施設の整備を支援します。

オ 新たな販路拡大へのチャレンジ

- ・契約販売など確実な需要を確保し、有利販売するため、国内外需要の開拓にチャレンジします。
- ・花き類の消費拡大を図るため、花育活動を展開するとともに、新たな「花の日」の創造に取り組みます。
- ・量販店や加工・業務用など実需者の定時、定量、定品質供給の要望に対応するため、産地間連携や産地リレー等による戦略的出荷販売に取り組みます。

カ 環境にやさしい農業の推進

- ・農業生産による環境負荷軽減を図るため、環境にやさしい農業の取組を拡大します。
- ・農業の安定的発展を図るため、生産により発生する廃プラスチック等廃棄物の適正処理を推進します。
- ・登録外農薬の誤散布による残留を防止するため、周囲の農作物や周辺環境に配慮し農薬飛散防止等の環境対策を推進します。

主な事業

- 産地における施設・機械整備支援
- 集出荷貯蔵施設整備に対する支援
- 園芸産地活性化の支援
- 果樹産地の強化支援
- 花植木産地パワーアップの推進
- 海外に向けた情報発信と商談機会の創出（再掲・販売促進・輸出拡大）
- 園芸用廃プラスチック処理対策の推進
- 園芸生産団体等の組織活動支援

【達成指標】

項 目	現 状 (24 年度)	目 標 (29 年度)
ビニールハウス等施設を 4 年間で整備する 面積（補助事業で整備する面積）（累計）*1		40ha
集出荷貯蔵施設を 4 年間で整備・再整備す る数（累計）*2		4
園芸作物（植木等）の輸出金額*3	34 億円／年	40 億円／年
梨の年間改植面積*4	50ha／年	100ha／年

*1 補助事業(国庫・県単)によるビニールハウス等施設を 4 年間で 40ha 整備します。

*2 集出荷貯蔵施設の整備・再整備を 4 年間で 4 か所実施します。

*3 園芸作物（植木等）の年間輸出金額の 17.6%(6 億円)増加を目指します。

*4 梨の年間改植面積の倍増を目指します。

品目別の振興方向

1 野菜・いも類 主要7品目の振興方向

品目名	現 状 と 振 興 方 向		主な生産地域
<p>キャベツ (3,030ha) 108億円</p> <p>(29年目標) 150億円</p>	現 状	<p>生食用春系キャベツを中心に、10月から翌6月にかけて出荷されます。</p> <p>4月の出荷量減少と6月の単価低迷が問題であり、経営安定に向けてこれらの解決が課題です。また、より効率的な機械化作業体系の確立による規模拡大が望まれています。</p>	<p>海匠 東葛飾</p> <p>指定産地 春: 銚子:930ha 東葛:30ha 旭:70ha 冬: 銚子:991ha 東葛:143ha 旭:108ha</p>
<p>だいこん (3,020ha) 121億円</p> <p>(29年目標) 160億円</p>	現 状	<p>県産だいこんは、適正品種の作付けや露地・トンネルなどの栽培法を組み合わせ、11月から翌6月にかけて出荷されます。特に3月から4月のトンネル栽培は品質が良く高い評価を得ています。経営の大規模化が進んでおり、共同洗浄選果施設などが導入される一方、加工・業務向けの需要も高まっています。</p>	<p>海匠 東葛飾 印旛 山武 千葉 君津</p> <p>指定産地 春 銚子旭: 508ha 山武:77ha 市原:44ha</p> <p>秋冬 銚子:541ha 北総:133ha 市原:100ha 袖ヶ浦:64ha 八街:49ha 富里:47ha 旭:83ha</p>
	振 興 方 向	<p>【産地活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売会議や産地活性化推進会議を定例的に開催し、産地情報の共有化により10月から翌6月の出荷期間内の安定出荷を推進します。 実需者ニーズに対応するための品種選定や出荷形態の検討を進め、需要に対応できる産地の育成を図ります。 加工・業務用キャベツの契約取引拡大を推進します。 <p>【機械化・省力化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担い手の経営規模拡大に向けて、定植機など作業効率を上げる高性能な機械施設の整備と、優良農地の集積により効率的な機械化体系の構築を推進します。 <p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存産地の安定的発展を図るため、土づくり、輪作体系の確立を推進し、産地規模での持続的な生産を強化します。 	

品目名	現 状 と 振 興 方 向		主な生産地域
<p>にんじん (3, 280ha) 130 億円</p> <p>(29 年目標) 170 億円</p>	現 状	<p>11 月から翌 3 月出荷の秋冬にんじんと 5 月から 7 月の春夏にんじんがあります。春夏にんじんの生産量が各産地で増加しています。</p> <p>収穫機、選別機など個々の生産者の機械化に加え、選別機能を持つ共同集出荷施設が整備されてきており、共選共販体制の強化に向けた取組が進められています。</p>	<p>秋冬が主 印旛 山武 香取 春夏が主 東葛飾 千葉</p> <p>指定産地 春夏 習志野:128ha 船橋:177ha 北総:148ha</p> <p>冬 千葉:82ha 北総:296ha 山武北部: 672ha 八街:605ha 富里:680ha 旭:12ha</p>
<p>ねぎ (2, 470ha) 164 億円</p> <p>(29 年目標) 210 億円</p>	現 状	<p>春夏の東葛飾地域と秋冬の九十九里地域に大別されます。東葛飾地域は個選出荷の生産者が多く、九十九里地域では、大規模集出荷施設が建設され、広域一元販売に向けた取組が進められています。</p>	<p>東葛飾 山武 長生 海匝</p> <p>指定産地 春: 横芝光匝瑛: 40ha</p> <p>秋冬: 長生:94ha 山武:255ha 横芝光匝瑛: 152ha</p>
	振 興 方 向	<p>【産地活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各産地合同の販売会議や産地活性化推進会議を定例的に開催し、産地情報の共有化を進めます。 量販店の一括仕入れや加工・業務用など大口需要に対応するため、産地間の連携を強化し県内広域の一元販売に向けた取組を推進します。 実需者の要望に応えるため、集出荷貯蔵施設を活用し、規格の統一や品質の向上、計画出荷による出荷期間の延長を推進します。 経営の安定化に向けた、契約取引の拡大や春夏にんじんにおける価格安定事業の導入を推進します。 加工・業務需要への取組を拡大するため、生産者の組織化や適した品種の選定・導入などにより産地を育成します。 <p>【機械化・省力化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担い手の経営規模拡大に向け、高性能な収穫機、調製施設等を整備するとともに、担い手への優良農地の集積を推進します。 <p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存産地の持続的発展を図るため、土づくり、輪作体系の確立を推進します。 	
	現 状	<p>【産地活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各産地合同の販売会議や産地活性化推進会議を定例的に開催し、産地情報の共有化を進めます。 量販店の一括仕入れや加工・業務用など大口需要に対応するため、産地間の連携を強化し県内広域の一元販売に向けた取組を推進します。 実需者の要望に応えるため、集出荷貯蔵施設を活用し集荷の一元化を図り、規格の統一や品質の向上、周年出荷を推進します。 経営の安定化を図るため、安定販売に向けた契約取引拡大や春ねぎ、夏ねぎの価格安定事業の導入を推進します。 加工・業務需要への取組を拡大するため、生産者の組織化や適した品種の選定・導入などにより産地を育成します。 <p>【機械化・省力化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担い手の経営規模拡大に向け、高性能な収穫機、調製機械等を整備するとともに、担い手への優良農地の集積を推進します。 <p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏場の苗生産を安定させるため、栽培管理技術の向上を図ります。 <p>【販売・流通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実需者の要望に応えるため、集出荷貯蔵施設等の整備により、広域の集荷体制を強化します。 	

品目名	現 状 と 振 興 方 向		主な生産地域
<p>トマト (849ha) 133 億円</p> <p>(29 年目標) 175 億円</p>	現 状	<p>半促成・抑制・越冬など、様々な作型により周年で出荷されています。</p> <p>近年は、収穫期間を長期化できる養液栽培の導入が進んでおり、単収増加に向けた取組が進められています。一方で、生産資材の高騰や生産者の高齢化が影響して、冬期の出荷量が減少しています。</p>	<p>印旛 海匝 山武 長生</p>
	振 興 方 向	<p>【産地活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売会議や産地活性化推進会議を定例的に開催し、産地情報の共有化を進めます。 量販店の一括大量仕入れや加工・業務用など大口需要に対応するため、産地間の連携を強化し県内広域の一元販売に向けた取組を推進します。 <p>【機械化・省力化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単収増加を図るため、環境制御技術の活用や養液栽培の導入を推進します。 経営の規模拡大に向け、温室の新規導入に加え、既存施設のリフォームや、省エネルギー対策及び低コスト栽培を推進します。 <p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地の維持発展に向け、施設の流動化を推進し、担い手の規模拡大を図ります。 安定生産に向け、難防除病害虫（黄化葉巻病など）対策の早期確立を目指します。 	<p>指定産地 夏秋 山武:115ha 海匝:116ha 八街:55ha 富里:48ha 長生:25ha</p> <p>冬春 海匝横芝光: 70ha 東葛:14ha 長生:85ha</p>
<p>きゅうり (515ha) 80 億円</p> <p>(29 年目標) 100 億円</p>	現 状	<p>12 月～翌 5 月に出荷される冬春きゅうりが県内の主な作型で、50a 以上の大規模経営が多くなっています。一部の産地で集出荷施設が再整備され、一元出荷の推進が期待されていますが、安定した生産を維持するためには、病虫害抑制など栽培管理の徹底が必要です。</p>	<p>海匝 長生</p> <p>指定産地 夏秋 長生:25ha</p> <p>冬春 山武:29ha 旭旛: 111ha</p>
	振 興 方 向	<p>【産地活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売会議や産地活性化推進会議を定例的に開催し、産地情報の共有化を進めます。 実需者の要望に応えるため、集出荷貯蔵施設を活用し、規格の統一や品質の向上、計画出荷を推進します。 実需者の要望に対応した契約取引の拡大を推進します。 <p>【機械化・省力化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営の安定的な継続を推進するため、温室等のリフォーム、省エネルギー対策及び低コスト栽培を推進します。 <p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担い手の規模拡大による産地の維持発展を図るため、施設の流動化を推進します。 経営の安定を図るため、難防除病害虫（キュウリ緑斑モザイク病など）対策の早期確立による安定生産を目指します。 	

品目名	現 状 と 振 興 方 向		主な生産地域
<p>かんしょ (4,540ha) 185億円</p> <p>(29年目標) 206億円</p>	現 状	<p>平成23年の産出額は全国第1位で、本県の重要品目の一つです。他県の産地では葉たばこからの転作により作付面積が増加していますが、本県では作付面積が年々減少しています。</p> <p>9月から12月に出荷が偏っているため、貯蔵施設を活用した計画出荷を行い、価格安定を図る必要があります。</p>	香取 印旛 山武
	振 興 方 向	<p>【産地活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各産地合同の販売会議や産地活性化推進会議を定例的に開催し、産地情報の共有化を進め、生産量の拡大と出荷期間の延長を図ります。 ・実需者の要望に応えるため、適正な品種比率による栽培を行うとともに、集出荷貯蔵施設を活用し、規格の統一や品質の向上、計画出荷を推進します。 ・安定的、計画的な周年出荷に向け、個々の農家における定温貯蔵施設の整備を推進します。 ・経営の安定化を図るため、安定販売に向けた契約取引拡大や価格安定事業の導入を推進します。 ・消費者ニーズに応えるため、新品種を開発、選定するとともに、新品種の産地化に向けた普及と栽培拡大を推進します。 ・加工・業務需要に対応できる産地強化を図るため、農商工連携を推進します。 <p>【機械化・省力化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手の経営規模拡大に向け、高性能な収穫機、貯蔵施設等を整備するとともに、担い手への優良農地の集積を推進します。 <p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年明け以降にも安定した品質で出荷できる体制を確立するため、定温貯蔵施設の整備を推進します。 <p>【販売・流通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実需者の要望に応えるため、集出荷貯蔵施設を整備し、広域の集荷体制を強化します。 	

資料：県全体の作付面積、産出額、指定産地面積は23年千葉県農林水産統計年報

2 果樹の主な品目別の振興方向

品目名	現 状 と 振 興 方 向		主な生産地域
日本なし (1,690ha) 138 億円 (29 年目標) 168 億円	現 状 <p>本県果実産出額の 85%を占めています。簡易被覆と露地栽培を組み合わせ7月から10月まで販売され、直売が出荷量の約7割を占めています。栽培面積は、横ばいから減少傾向にあり、全体の約5割を占める「幸水」は老木化に伴い生産力が低下しつつあります。また、気象変動の影響で作柄が不安定になっています。</p>	振 興 方 向 <p>【産地活性化】 ・需要の多様化に対応するため、新品種の導入など品揃えを強化します。</p> <p>【高品質・安定生産】 ・生産性の向上を目指し、地力増強や老木園の計画的な更新を推進するとともに、早期多収技術、省力化技術の開発・普及を図ります。 ・担い手への園地集積、省力機械等の導入、簡易被覆栽培による労力分散と収穫期間の拡大等により、担い手の規模拡大を推進します。</p> <p>・高温干ばつにより障害が発生しやすい「新高^{にいたか}」から「あきづき」等への更新を促進し、生産性の向上を図ります。</p> <p>・県育成品種等の産地における作付拡大に向け、有望品種の地域適応性を調査・確認します。</p> <p>・気象災害を防止・軽減するため、多目的防災網やかん水施設等の整備を推進します。</p> <p>・梨生産による環境の負荷を軽減するため、農薬飛散防止ネットの整備や剪定枝の堆肥化等を推進します。</p> <p>【販売・流通】 ・計画的な出荷に向け、集出荷体制の整備を推進します。 ・品質の高さを生かし新たな販路を開拓するため、輸出等にチャレンジします。</p>	東葛飾(824ha) 印旛 (405ha) 千葉 (151ha) 香取(65ha) 長生(56ha) 夷隅(48ha) (H18 時点)
びわ (167ha) 10 億円 (29 年目標) 10 億円	現 状 <p>安房地域の特産果樹です。急傾斜地での栽培が多いことや生産者の高齢化に伴い栽培面積は減少傾向にあります。寒害やカメムシなどの被害を受けやすく作柄の変動が大きい品目です。大果系品種が主体です。ハウス栽培面積は増加傾向にあり、現在47名、約10haになっています。</p>	振 興 方 向 <p>【産地活性化】 ・多様な需要への対応に向け、観光産業と連携した観光果樹園への取組や、生果及び果実加工品の開発とブランド化を推進します。</p> <p>【高品質・安定生産】 ・品質の向上と生産の安定化を図るため、地力増強や低樹高化、寒害対策、カメムシ対策等を推進します。</p> <p>・消費者ニーズに応えるため、種子なしびわ「希房^{きぼう}」の産地定着に向けた普及と栽培拡大を推進します。</p> <p>・安定的な生産を維持拡大するため、優良品種の導入や老木の更新を推進するとともに、園内道やモノレール等の整備、ハウス等の施設化を推進します。</p> <p>【販売・流通】 ・産地流通体制を強化するため、出荷組織の統合や集出荷体制の整備を図ります。</p>	安房 (167ha) (H18 時点)

資料：県全体の作付面積、産出額は23年千葉県農林水産統計年報

3 花植木の主な品目別の振興方向

品目名	現 状 と 振 興 方 向		主な生産地域
<p>主要切花 (カーネーション、ユリ、トルコギキョウ、バラ、ガーベラ、ラン等)</p> <p>(651ha) 112 億円</p> <p>(29 年目標) 133 億円</p>	現 状	<p>国内需要の減少、輸入量の増加で市況が低迷しており、燃油高騰に加えて資材、流通コスト等の上昇などから経営は厳しい状況が続いています。</p> <p>このため、低コスト化や生産性の向上、日持ち性等の品質向上が必要です。</p>	海匠 長生 安房 香取 印旛
振 興 方 向	<p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産性を高め経営の安定化を図るため、低コスト耐候性ハウス等や養液栽培の導入を推進するとともに、温室等のリフォーム、省エネ対策を推進します。 有利販売に向け、日持ちが向上する鮮度保持技術の定着を促進します。 低コスト化を図るため、LED利用の電照栽培など先端技術の開発、普及を促進します。 産地の生産力の維持発展に向け、法人化の推進などにより企業の経営体の育成を図ります。 <p>【販売・流通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地の競争力を強化し有利販売を目指し、共選共販による販売ロットの拡大を推進します。 産地流通体制の強化に向け、集荷・販売機能を持ったハブ組織の育成を図ります。 花に対する親しみの醸成に向け、花育など消費宣伝活動を推進します。 		
<p>特産切花 (ストック、キンギョウ、キンセンカ、ヒマワリ、カー、スイセン、球根切花等)</p>	現 状	<p>全国的な流通量は少ないが、本県産が全国上位に位置付けられる東京都中央卸売市場でのシェアが 30%を超えている品目であるため、有利販売が期待できます。</p> <p>しかしながら、生産・販売の面的つながりが弱く、その有利性が発揮されていません。</p>	山武 安房 君津
振 興 方 向	<p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> 有利販売に向け、日持ちが向上する、鮮度保持技術の定着を促進します。 多様なニーズに対応し産地の安定化を図るため、生産者育種を推進します。 生産性を高め経営の安定化を図るため、低コスト耐候性ハウス等や養液栽培の導入を推進するとともに、温室等のリフォーム、省エネ対策を推進します。 <p>【販売・流通】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市場シェアの拡大を図るため、共選共販を推進します。 地場消費の拡大に向け、直売、観光農業を推進します。 花に対する親しみの醸成と新たな需要の開拓に向け、花育などの消費宣伝活動を推進するとともに、花を利用した加工品等の商品開発を推進します。 		

品目名	現 状 と 振 興 方 向		主な生産地域
鉢物 鉢花（シラネ、 フジ、ペゴニア、花 壇苗物） (215ha) 59 億円	現 状	<p>業務、贈答需要が低迷する中で、ガーデニング素材としての需要が増加し、全体的に小鉢生産や花壇用苗物（野菜苗含）にシフトしています。</p> <p>個人生産者が多く、売り先が小口で多岐に渡っています。市場価格の低迷が続く中で、生産・流通コストの上昇により経営は圧迫されています。</p> <p>一部の施設等が老朽化しており、品質の向上、作業の効率化のための改善が必要となっています。</p>	県内全域
(29 年目標) 68 億円	振 興 方 向	<p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低コスト化を図るため、LED利用の電照栽培など先端技術の開発、普及を促進します。 ・多様なニーズに対応し、産地の安定化を図るため、生産者育種を推進します。 ・産地の生産力の維持発展に向け、法人化の推進などにより企業の経営体の育成を図ります。 ・生産性を高め、経営の安定化を図るため、低コスト耐候性ハウスの導入や温室等のリフォーム、省エネ対策を推進します。 <p>【販売・流通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通コストの削減を目指し、集出荷の共同化を推進します。 ・地場消費の拡大に向け、花壇用苗物等の直売を推進します。 ・花に対する親しみを醸成するため、花育など消費宣伝活動を推進します。 	

資料：県全体の作付面積は花き生産出荷統計、産出額は23年生産農業所得統計

品目名	現 状 と 振 興 方 向		主な生産地域
<p>植木 (輸出向け)</p> <p>(628ha) 出荷額 64 億円</p> <p>(29 年目標) 出荷額 74 億円</p>	現 状	<p>高度な技術で作られた造形樹を中心に中国等のアジア向けの輸出額が伸びています。しかし、中国で好まれる数百年経過したマキなど大型樹の供給量は減っています。</p>	<p>印旛 海匠 山武</p>
振 興 方 向	<p>【産地活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的な植木生産体制の確立に向け、苗木の自家養成等を推進します。 ・ 作業効率の向上と規模拡大に向け、農地の利用集積を推進します。 ・ 輸出の拡大を目指し、輸出相手国の検疫条件に対応した生産、流通体制の整備を図ります。 ・ 主力品目である「マキ」を害虫から守るため、加害するケブカトラカミキリの防除対策を推進します。 ・ 造形技術の維持・継承に向け、植木伝統樹芸士及び銘木の認証を推進します。 <p>【販売・流通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 輸出の拡大を図るため、EU、東南アジア、ロシア圏など、幅広い海外バイヤー等との商談を推進します。 		
<p>植木 (国内向け)</p>	現 状	<p>景気の悪化などから、公共工事が減少し、全体的に需要が低迷しています。震災復興による海岸植栽やオリンピック等の新しい需要の可能性が生まれています。</p>	<p>千葉 印旛 海匠 山武 長生 君津</p>
振 興 方 向	<p>【産地活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい需要に応えるため、有望樹種の導入等、計画的な植木生産体制の確立を図ります。 <p>【機械化・省力化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営規模の拡大に向け、省力機械やかん水設備などの導入を推進するとともに、農地の利用集積を図ります。 <p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術の維持・継承に向け、雑木類を中心とした銘木の認証を推進します。 <p>【販売・流通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな需要の創造に向け、生産者と実需者（造園事業者、ハウスメーカー等）が連携した植木の消費拡大を支援します。 ・ 津波被害等の災害復旧需要に対応するため、防災林や公共緑化のニーズに対応した新樹種の導入を推進します。 		

資料：県全体の作付面積、出荷額は花木等生産状況調査（国）
※ 面積、出荷額については、輸出向けと国内向けの合計